

異なる運営母体から成る補習授業校経営と素晴らしい仲間たち

— 100kmの道のりを乗り越えて実現する年に一度の合同運動会 —

前クイーンズランド日本語補習授業校 校長

山口県下関市立垢田小学校 教頭 永 島 昭 雄

キーワード：異なる運営母体，合同運動会，多様な支援者

1. はじめに

オーストラリアは南半球にあるため、季節は日本とちょうど逆である。北は赤道付近から、南は南緯40度まで広がる広大な国土を持っているため、気候も熱帯から温帯までさまざまである。年間を通して日差しが強いため、帽子、サングラス、日焼け止めクリームは必携であり、夜は夏でも気温が下がるところもある。

ブリスベンとはクイーンズランド州の州都で、約170万の人口を擁し、その面積は東京23区のおよそ2倍にあたる。経済の中心でもあり、街には、近代的なビルが立ち並んでいる。気候は亜熱帯に属し、年間を通じて温暖で、ちょうど赤道をはさんで沖縄の那覇市と同じくらいの緯度に位置している。適度な湿度が保たれ、多くの緑に囲まれた落ち着いた街である。

一方、ゴールドコーストは有名なリゾート地であり、年間の平均気温は24度で、平均晴天日数は290日、世界各地から訪れる観光客の姿は、一年中絶えることがない。



2. 異なる運営母体

クイーンズランド日本語補習授業校は、オーストラリア第三の都市ブリスベンと南半球を代表するリゾート地、ゴールドコーストにある。その大きな特徴は、ブリスベン日本クラブとゴールドコースト日本人会が運営母体となる世界で唯一の在外教育施設ということである。またオーストラリア国内にある補習授業校のうち、派遣教員がいる唯一の補習授業校でもある。



ブリスベンとゴールドコーストは、その間が約100km離れている。この距離も他の在外教育施設には例を見ないものである。ブリスベン、ゴールドコースト双方に学校事務所があり、火曜日・木曜日はブリスベンに、水曜日・金曜日はゴールドコーストに勤務している。補習校のある土曜日にはブリスベン校、ゴールドコースト校に隔週ごとに通っている。平均で週に600kmほど運転することになる。派遣教員は一人なので、運営委員会から校長として任命されている。運営委員はブリスベン5名、ゴールドコースト5名、それに校長の

計11名で構成され、オブザーバーとして、総領事館から補習授業校担当の領事がこれに加わる。合同の運営委員会は年に3回程度、また、それぞれの地区のみの会議が2ヵ月に1度ほど開催される。事務員は双方に1名ずついて、校長の仕事を補助してくる。

ブリスベン校は企業駐在や大学の研究者、永住の子女が通っている。ゴールドコースト校は永住の子女の割合がブリスベン校に比べて高いのが特徴である。保護者の補習授業校に対する要求も微妙に違ってきている。多くの補

習授業校が抱えているように、借用校からのクレームもあるので校長としてその対応に尽力する必要がある。

また永住の家庭が増えてきているので、子供達の国語力の格差がかなりある。カリキュラムの在り方にも課題が残っており、個に応じた指導ができるよう、20人学級を基本として、それを越えた場合は学級増にしたり、副担任をつけたりと工夫している。



3. 100kmの道のりを超えて開催される合同運動会



クイーンズランド日本語補習授業校の諸行事中で、一番の特色は何と言っても年に一度100kmの道のりを超えて開催される「合同運動会」である。限られたそれも少ない授業時間を遣り繰りして作り出した2時間の練習時間だけで、本番の運動会を迎えなければならない。日本の学校から考えればまさに驚異である。ほとんどが過去の経験と机上で考えられたタイムスケジュールをもとに当日の運動会が進行される。

補習授業校の運動会は、現地校のそれとは違い日本人の保護者にとっては昔懐かしい競技種目の連続でもある。「玉入れ」「綱引き」「台風の目」「紅白対抗リレー」等々、手に汗握る熱戦が展開される一日である。年々児童生徒数も増加し、合同開催が難しい状況にもあるが、その困難の壁を乗り越えての開催であるだけに盛大な開催の喜びはひとしおである。白組（ブリスベン校）と紅組（ゴールドコースト校）とに分かれての熱戦は、児童生徒に止まらず教職員や保護者を含んでの熱烈な応援となる。その応援が最高潮に達するのが保護者競技の「綱引き」である。父親や母親の力の見せ所とばかり、子供達の大声援を受けてまさに運動会の主役とばかり大活躍の場面が展開される。こんな父母の逞しさこそ、補習授業校の子供たちにとって誇りである。

4. 素晴らしき仲間たち

クイーンズランド日本語補習授業校の運営は、多くの皆様方の情熱から生まれた行動によって支えられている。月曜日から金曜日まで民間企業や他の学校等で働き、教職員は土曜日の早朝補習授業校に駆けつける。保護者は世界を担うこどもたちのために骨身も惜しまず学校を支援して下さる。また、ブリスベン日本人クラブとゴールドコースト日本人会は補習授業校の経営・運営を会の主目的とし、献身的な行動をされている。その他にも商工会議所や在ブリスベン総領事館の皆様をはじめ、多くの地域の皆様のご理解とご支援のお陰をもってクイーンズランド日本語補習授業校の現在があることを実感した次第である。

週1日、年間40日の補習授業校ではあるが、子供達のためにと額に汗する大人達の後ろ姿を見ながら成長を続ける児童生徒は、必ずや健やかな成長を遂げてくれるものと確信する。その素晴らしき仲間達の中心こそ補習授業校の主役であるこどもたちである。



5. 終わりに

自分自身の人生にあって、クイーンズランド日本語補習授業校でお世話になった4年間は大変貴重な日々であった。海外の地で、多くの子供達や人々との出会いと別れが、人間として生きることの素晴らしさや大切さを実感させら

れた。家内と娘を同伴しての赴任であったが、娘の現地校への入学により一層の交流を深めることができた。現地での生活・習慣・伝統・文化・教育・産業等々に直接触れることは、日本国内では絶対に経験することのできない財産であると言っても過言ではない。その素晴らしき財産を得られたことに深く感謝するとともに赴任地での貴重な経験を今後の教育現場での取り組みに生かして行く所存である。

小学校2年生で同伴した娘が現在日本の中学1年生として通学している。逆カルチャーショックを全身に受けながら悪戦苦闘している毎日である。そんな娘も夜には時折、オーストラリアで交流を結んだ友たちとメールやスカイプでの遣り取りを継続している。英語を難なく操る娘の成長に世界の広がりを感じる昨今である。

終わりに、素晴らしい4年間にわたる研修の機会を与えて下さった皆様方に心より感謝申し上げたい気持ちである。今後、なお一層多くの派遣教員による在外での活躍の舞台が広がっていくことを確信する。